

高齢者介護施設の感染防止対策は万全か？

高齢者施設に必要な感染防止対策

坂本史衣 聖路加国際病院 医療安全管理室 ICP

高齢者施設の入所者は、急性期医療機関の入院患者とは多少異なる感染リスクをもつため、罹患しやすい感染症の種類も異なっている。罹患しやすい感染症には、尿路感染症、肺炎やインフルエンザなどの呼吸器感染症、褥瘡感染や疥癬などの皮膚・軟部組織感染症、そして胃腸炎がある。また、高齢者施設では、市中から持ち込まれた感染症と施設内で発生した感染症が混在し、これらが散発的に発生する場合と、流行(アウトブレイク)として発生する場合がある。

高齢者施設で発生する感染症の伝播経路は、急性期医療機関と同様、職員の手指を介した直接接触がもっとも多く、次いで、空気、飛沫、食物や水などを介した伝播形式がある。これらの伝播経路を遮断するために必要な手洗いや手指消毒、個室隔離、換気などの設備が不足している高齢者施設では、伝播が促進される可能性が高い。また、高齢者施設では検査設備や医療従事者が存在しないことも多く、タイムリーな感染症の診断と治療が困難な状況に陥り易い。

本シンポジウムでは、高齢者施設に特有の感染リスクに基づき、入所者および職員に対し、日常的に実施する必要がある感染防止対策と流行発生時の対応について述べる。また、高齢者施設で発生しやすい前述の感染症の発生頻度、リスク因子、対策についても取り上げる。